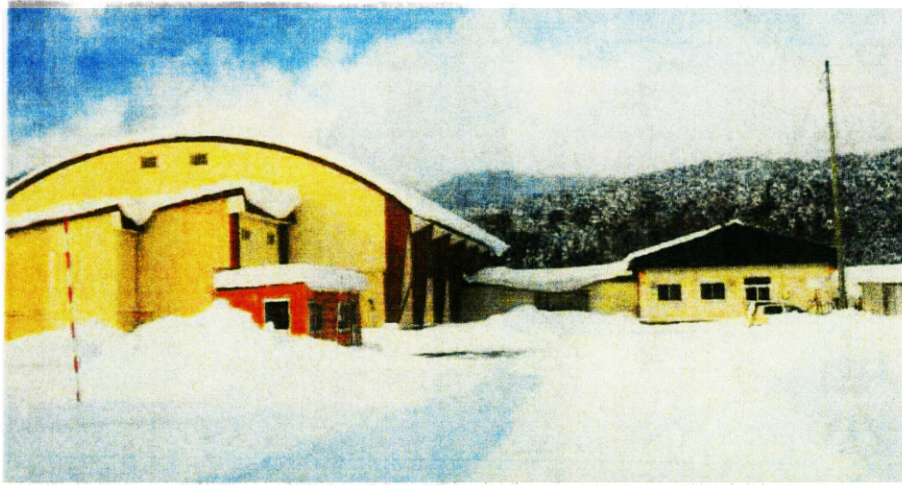


# 貝化石 **飼料** **肥料** 工場 来夏稼働



貝化石の飼料・肥料工場が計画されている旧中頓別農業高の体育館（左）と柔剣道場（右）

【中頓別】富良野市の建設業者、富桑工業が町内で設立した関連会社が旧中頓別農業高跡地（上駒）に計画している飼料・肥料工場の事業内容が固まった。専門家によると、原料に用いる貝化石はミネラルが豊富で、高い商品力が期待されるといふ。工場は来年7月に稼働予定で、飼料と肥料計年間4千トンの生産を計画している。

（大戸透）

中頓別農高跡地で年4千トン生産

## 「ミネラル豊富 高い商品力」

富桑工業は2014年、道外の飼料業者（倒産）が所有していた鉱山を取得。同社が発掘した貝化石を、関連会社の「KUWAHARA」（社長・桑原守孝富桑工業会長）が飼料や肥料に加工する。11月中旬の臨時町議会で、町が工場建設などに1億3千万円を補助することが決まった。

町によると、鉱山周辺の地層は中頓別層（170万年前〜1千万年前）と呼ばれ、フジツボやホタテ貝が堆積してできた石灰岩層。中頓別の貝化石に詳しく「KUWAHARA」の学術顧問でもある中野共男・帯広畜産大名誉教授によると、プランクトンや海藻類とともに堆積したためカルシウムは比較的少なく、マグネシウムやマンガンが豊富に含まれているという。

中野さんは「腸内酵素を活性化させる作用があり、飼料として理想的。土壌改良材やサプリメント、化粧品にも活用できる」と強調する。道内の農家に提供したところ、貝化石を使った飼料を養った家畜は肉りょう

まみが増したという。

「牛とろ丼」に使う肉牛を育成する十勝管内清水町のポーンフリーファームもかつて、中頓別の業者から貝化石飼料を入手していた。現在は他産地の飼料で代替しているが、「工場ができればまた中頓別の飼料を使いたい」と話している。

工場は来年2月着工。旧体育館を改修する。年間生産量は飼料千トン、肥料3千トン。年間売上高は2億7千万円が目標。従業員は6人で数人は地元から雇用する。町役場で6日夜に開かれた住民説明会では、桑原社長が「住民のご協力をいただきながら事業をやっていきたい」と述べた。町の担当者は「鉱山の貝化石埋蔵量は60年分ある。資源の枯渇を理由にした撤退は心配ない」と説明した。